

1 本年度の重点教育目標

・思いやりの心で ふれあい 高め合う子

2 本年度の取組の重点

1. 教育指標「自分で『5つの〇あ』」の推進(特に「ありがとう」「あいさつ」) 2. ICT活用と教科担任制の積極的展開による「令和の日本型学校教育」の充実
3. 組織的協働体制の確立と働き方改革(業務改善)の推進 4. コミュニティ・スクール(地域運営協議会)を基盤とした地域・家庭との連携強化

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見(改善策など)
確かな学力を育む教育の推進	1. ICTの効果的活用と、3年生以上での教科担任制の積極的展開により、指導の充実は図られたか。	a	ICTを「教具」としてだけでなく、児童が自ら情報を選択・活用する「文房具」として使いこなすための授業改善を継続する。	A	A	デジタル教科書の活用・習熟に期待している。ICTのための授業づくりではなく、従来型授業に「ICT活用」をすすめ、実践を期待しています。
	2. 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現できたか。	b	振り返りの時間を充実させ、児童が自らの変容を実感できる学びの質の保障に努める。	A	A	特に「対話的」な学びのための授業仕掛けを楽しみにしております。
豊かな心を育む教育の推進	1. 教育指標「5つの〇あ」の実践を通し、自分から進んで感謝や挨拶、きまりの遵守ができる態度を育んだか。	a	挨拶の質(時や場に応じた言葉遣い)をさらに高めるため、地域一貫教育の視点からも継続して指導する。	A	A	目を見て挨拶する児童が増加。校内に好ましい人間関係が醸成されている。「5つのあ」の一層の推進と継続を期待しています。
	2. 生徒指導の機能を生かし、いじめや不登校等に対して迅速・適切な対応をとったか。	a	組織的な情報共有の質をさらに高め、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関とより緊密に連携することで、未然防止の取組を強化し、すべての児童が安心して生活できる体制を継続する。	A	A	嫌な気持ちにさせたら「いじめ」位の考えから始めるスタンスは良いと思う。
健やかな体を育む教育の推進	1. 運動の習慣化や望ましい生活リズムの確立を図り、児童が自ら健康増進に努める態度を育成できたか。	b	SNSに係る時間の削減など、家庭と協力した生活リズムのさらなる改善が課題である。	A	A	休み時間の遊びから体力作りをするのは賛成。
	2. 安全教育や避難訓練の充実により、自らの命を守るための「危機回避能力」を醸成できたか。	a	放課後や校外での安全確保についても、地域や関係機関との連携をさらに強化する。	A	A	避難訓練や引き渡し訓練を通じ、安全意識が向上している。
業務改善と組織運営の推進	1. (必須項目) 働き方改革が日常化するよう業務内容を精査し、組織的な協働・協力体制を確立できたか。	a	特定の業務に負担が偏る場面があるため、さらなる分担の適正化とICTによる事務効率化を推進する。	A	A	労力に感謝しております。
	2. 教職員が主体的に経営に参画し、日常の実践や研修を通して授業改善や専門性の向上に努めたか。	a	各種研修への積極的参加を促し、時代に即した指導力を継続的に磨く体制を維持する。	A	A	確かな学力のためにも、個人の授業力向上、学年学級経営能力の向上に努めてほしい。
家庭・地域と連携した教育活動の推進	1. (必須項目) 学校運営協議会(CS)の機能を有効に活用し、地域・家庭と一体となった学校運営を推進できたか。	a	現在の良好な関係を基盤とし、学校側から「地域の方々の参画を求める教育活動」をより具体的に提示するなど、町会の方々を学校運営のパートナーとして、主体的に関与できる仕組みを整えることで、実効性の高い「地域とともにある学校」を目指す。	A	A	行事を通じ地域と「顔の見える関係」を強化されている。地域の学校として応援しております。
	2. 学校間の連携接続を目指し情報共有と同一歩調による取組に努めたか。	a	今後は、授業公開や合同研修の機会をさらに充実させ、教職員間の交流を深めることで、いわゆる「小1プロブレム」「中1ギャップ」の解消や、学習指導における連続性をより確かなものにしていく。	A	A	幼保小中学校で目標を共有し密接に連携されている。「湯川学」の取組に期待しています。

■ 自己評価達成状況

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正が必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。